



第56回糖尿病学の進歩 共催セミナー24

『IoT活用が変えるこれからの糖尿病治療』

オンデマンド配信：2022年2月25日（金）～3月14日（月）

演者

琉球大学大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座

教授

益崎 裕章 先生

※共催セミナー参加方法につきましては、第56回糖尿病学の進歩
公式ホームページをご確認ください。

<https://kwcs.jp/56shinpo/>

本セミナーをご視聴いただきましたら、セミナー視聴ページよりアンケートへのご協力をお願いいたします。
ご回答いただいた内容は、今後の弊社マーケティング施策に活用させていただきます。
また、アンケートへご協力いただきました方へのお礼として粗品をお渡しいたします。

第56回糖尿病学の進歩 共催セミナー24 『IoT活用が変えるこれからの糖尿病治療』

琉球大学大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座
教授 益崎 裕章 先生

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックは、感染拡大防止の観点に基づく外出行動の抑制や3密回避の奨励により、日常の生活様式に劇的な変化をもたらした。総務省の令和3年版情報通信白書によると、COVID-19の感染拡大に伴って社会の様々な分野でデジタル化が一気に加速し、医療分野においてもオンライン診療の広がりやデジタル医療情報の収集システム開発など、新しいうねりが広がりを見せている。2017年に内閣府の離島活性化事業としてスタートした沖縄県久米島“デジタルヘルスプロジェクト”はデジタルヘルスデバイスと健診データを活用して2型糖尿病や肥満症などの生活習慣病の予防・改善を目指す個別化精確医療の実践モデルケースとして、琉球大学医学部とIT関連企業群がタイアップして展開してきた。デジタルヘルスデバイスから得られた多様なデータをスマートフォンと連動させてクラウド化し、個々人の医療・生体情報を人工知能 (AI) が分析し、生活習慣病の予防や進展阻止に寄与する要因を探索するもので、ひとり、ひとりの被験者にとって最適な生活習慣や望ましい活動量などを推測するアルゴリズムの開発、効果的なフィードバックを行うアプリケーションの開発や科学的実証へと展開している。従来の医療・予防医学では疾病が顕在化したあとの医療介入や、画的予防プログラムに対して多様性を持つ集団を無理矢理に当てはめることを求めてきたが、今後はひとり、ひとりの生体情報や行動科学的分析に基づいた“未病からの個別化で精確な予防と医療 (プレジジョン・ヘルス&プレジジョン・メディスン)”が主要なウエイトを占めると予測される。従来、糖尿病治療における患者へのフィードバックも、問診による日常生活の把握や糖尿病自己管理ノートの記載内容をベースに行われてきた。目覚ましい医療技術・医薬の進歩により、患者の病態に合わせた治療がある程度、可能になってきたが、様々な通信機能を備えたIoTデバイス登場により、診察前のデータ確認・解析から個人の実情に合わせた木目細やかで精度の高いフィードバックが可能になってきた。測定データがアプリ経由でクラウド上に自動転送され、医療機関とのデータ共有が可能な血糖自己測定器や、2021年6月に薬事承認を受けた、インスリン投与データを自動的に記録するインスリン注射ペンなどに代表されるように、患者自身の振り返りや、医療者による的確でタイムリーなフィードバックに大きな役割を果たすことが期待される。糖尿病患者におけるモバイル端末の普及率は今後、急速に高まることが予想されており、糖尿病診療におけるIoTデバイス活用はあらゆる医療従事者にとって必須アイテムとなる。このような背景を踏まえ、本セミナーではこれからの糖尿病治療においてIoTの活用がもたらすインパクトやメリットについて自験例を含めてご紹介したいと考えている。

アークレイがお届けするセミナーのご案内

【テーマ (予定)】 糖尿病療養指導におけるデータ活用術

(WEB配信、4月頃予定)

※「日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会〈第2群〉(0.5単位)」申請予定

詳細についてはLINE公式アカウント『検査のアークレイ (医療従事者用)』から配信予定です。

右の二次元バーコードより、友だち追加をお願いします。



『検査のアークレイ (医療従事者用)』では
イベント・セミナー情報の他にも、教育用資料の
紹介や、友だち限定コンテンツを配信しております。

